

地域戦略人材塾 第2回「エビデンスに基づく政策形成（EBPM）の基本的な考え方」

（講師：小林庸平）

コメントシート

① 本日の講義の分野について、最新の政策の動向を知ることができましたでしょうか？

● そう思う	15
● まあそう思う	13
● あまりそう思わない	0
● そう思わない	0



② 本日の講義はわかりやすかったでしょうか？

● 非常にわかりやすかった	10
● わかりやすかった	18
● わかりにくかった	0
● 非常にわかりにくかった	0



主なQ&Aは以下の通りです。

Q1

日本でEBPMのためのデータベースの構築が遅れている理由は何でしょうか？

A1

エビデンスを政策形成に活用するニーズや意義がまだまだ共有されていないからだと思います。「エビデンスを使いたい」という要求があってはじめてデータベースが役に立ちます。

また、海外でEBPMデータベースを構築しているのは非営利組織や半官半民の組織であることが多いですが、日本ではそういったセクターの力がまだまだ弱いことも一因ではないかと考えています。

Q2

- ① ボトムアップによるエビデンスに基づいた政策立案は理想だが、自治体ではトップダウン的な政策立案が多いのが現状。トップダウン的な政策を設計する際に意識することは何かあるか教えてもらいたい。
- ② 行政においてEBPMを学ぶのに最適な書籍とかがあれば教えてもらいたい。

A2

- ① EBPM は必ずしもボトムアップだけに適用できる考え方ではありません。トップダウン的に政策課題が決まり、何らかの対策を講じなければならないことはよくあるとおもいます。そうした時にトップダウン的な政策課題を解決するためにどんな手段が良いかを考える際にエビデンスを活用していくことができます。
また、重要政策で時間もお金も割くことができるのであれば、実証実験・モデル事業的なフェーズにおいてエビデンスを作り出すことも非常に有益だと思います。
- ② 編著をしている書籍がこの夏くらいに出る予定ですので、もう少しお待ちいただくと幸いです。

Q3

エビデンスとされる海外サイト（海外における研究）を、文化や思想等が異なるであろう日本において、どの程度信頼性が担保できると考えられるか教えていただきたいです。

A3

来週の第2回のなかで少し丁寧にご回答いたしたいと思います。

Q4

今週もありがとうございました。宿題はその場で全員が披露してブレイクアウトルームへの組み分けをご指示いただけるという理解でよろしいでしょうか。全員が発表しない場合、発表で指名されなかったメンバーは自動的に振り分けられるのでしょうか。理解が悪くて申し訳ないですが、教えていただけるとありがたいです。

A4（事務局回答）

皆さまの当日のご参加状況により、こちらでチーム分けさせていただきます。

Q5

政策効果測定の研究の方法として、ランダム化比較試験を紹介いただきましたが、自治体でこの試験を行うことは、被験者の設定などの面でハードルが高いように感じました。自治体での取組事例などをご存じでしたら紹介いただきたいです。

A5（事務局回答）

6月29日（水）に活用事例のお話があります。

その他のコメントは以下の通りです。

- ・一旦立ち止って考えることで、違った視点から考えることができると感じた。
- ・エビデンスという言葉にも色々な捉え方や解釈があり、エビデンスを基に政策形成をするというために本質的に大事なことが何か、ということについて考えさせられました。
- ・狭義のエビデンスを得るのにも時間や資源を投じる必要があると感じた。自己目的化している事業評価の方法を改めるヒントになった。
- ・今回の講義で、自分の EBPM の認識を改めることができました。高校英語でエビデンスは証拠と覚えた記憶があり、政策の証拠ということはバックデータだろうという認識でしたが、そうではなくアクションの結果として得られるアウトカムとの間の因果関係と整理していただいたことで、スッと腑に落ちたように思います。
- ・法定業務やその他業務に限らず、「前年度はこうやっていたから」「ずっとこうやっているから」という前例踏襲的な考え方が横行しています。この考え方を元に、その時々に合わせて事業を組み立てられるようになると、より効果的な事業が展開できると感じました。
- ・サイバーエージェントのデータベースがあったことは初めて知りましたので、今後参考にしていきたいです。
- ・エビデンスについて、今までは広義の意味として使っておりましたが、狭義の活用もあることを知りました。また、本当に因果関係があるのか疑う必要があることにも気付かされました。
- ・健康に関する担当課に所属しています。健診データを分析することで、健康課題を抽出し、その健康課題に対して住民にどうアプローチしていくかなどエビデンスに基づいた事業の展開を計画するという点で勉強になりました。
- ・最近では自治体においてもエビデンスを重要視する傾向が見られるが、「必要性の根拠」を示すのみでその先の「有効性の根拠」の視点が欠けているように感じました。
- ・労力は必要と思われるが、ランダム化比較試験を行ってみたいと思った。
- ・最後ワークをした時に、私が考えた回答とは違う回答が出た際に、別の視点から物事を捉

えることができなかった。回答は1つ、2つだと思い込んでしまっていたことに気づくことができた。

- ・女性消防団員が中々集まらないので、広報や自治区へのチラシだけでなく因果効果を考察して取り組んでいくことがヒントになった。

以上です。どうもありがとうございました。

地域戦略人材塾 事務局